

2012 年度博士学位論文要旨

アメリカ高等教育におけるサービス・ラーニングの  
制度化過程に関する研究

桜美林大学大学院 国際学研究科 国際関係専攻

ライトウ山崎晴世

# 目 次

序 章	日本の高等教育改革におけるサービス・ラーニング研究の視座 …4
1.	サービス・ラーニングに着目する理由 4
2.	日本の高等教育改革 5
3.	サービス・ラーニング導入の意義 7
I.	アメリカにおけるサービス・ラーニングの現状 9
1.	サービス・ラーニングの実施方法 9
2.	サービス・ラーニングへの参加状況 12
II.	本研究の課題 15
1.	本研究の背景 15
2.	本研究の目的 17
3.	本研究の意義 17
4.	用語の解説 18
5.	論文の構成 24
III.	研究計画と研究方法 25
1.	研究計画 25
(1)	研究の仮説と枠組 25
(2)	研究質問 31
2.	研究方法 31
(1)	事例研究の理論的根拠 31
(2)	資料収集の方法と出所 31
(3)	研究対象の選定 33
(4)	研究手順 34
(5)	研究方法の限界 35
第2章	先行研究の検討……………36
I.	サービス・ラーニングの理論的背景 36
1.	サービス・ラーニングの歴史 36
2.	サービス・ラーニングの定義と取り組み 39
3.	サービス・ラーニングの理論的根拠と目的 42
II.	サービス・ラーニングの効果 49
1.	学生に関する成果 49
2.	教員への効果 53

3.	大学への効果	55
III.	サービス・ラーニングの導入と持続的発展	56
1.	サービス・ラーニングの実施と持続	56
2.	サービス・ラーニングの制度化の概念	61
(1)	サービス・ラーニングの制度化の特徴	61
(2)	大学の組織的課題とサービス・ラーニングの役割	62
(3)	サービス・ラーニングの制度化の測定モデル	63
3.	先行研究のまとめ	66
第3章	3 大学におけるサービス・ラーニングの制度化の取り組み	………68
I.	ペンシルベニア大学	68
1.	歴史的背景	68
	サービス・ラーニング関連年表	73
2.	サービス・ラーニングの制度化の5局面及び構成要素への取り組み	74
Dimension I:	サービス・ラーニングの原理と使命	74
II:	サービス・ラーニングへの教員の支援と関与	85
III:	サービス・ラーニングへの学生の支援と関与	94
IV:	コミュニティの参加と協力	100
V:	組織的支援	104
3.	まとめ	125
II.	ポートランド州立大学	129
1.	歴史的背景	129
	サービス・ラーニング関連年表	133
2.	サービス・ラーニングの制度化の5局面及び構成要素への取り組み	134
Dimension I:	サービス・ラーニングの原理と使命	134
II:	サービス・ラーニングへの教員の支援と関与	144
III:	サービス・ラーニングへの学生の支援と関与	158
IV:	コミュニティの参加と協力	164
V:	組織的支援	171
3.	まとめ	189
III.	カリフォルニア州立大学モントレイ校	192
1.	歴史的背景	192
	サービス・ラーニング関連年表	199
2.	サービス・ラーニングの制度化の5局面及び構成要素への取り組み	200
Dimension I:	サービス・ラーニングの原理と使命	200
II:	サービス・ラーニングへの教員の支援と関与	212

III:	サービス・ラーニングへの学生の支援と関与	220
IV:	コミュニティの参加と協力	225
V:	組織的支援	231
3.	まとめ	248
第4章.	3事例の取り組みの比較	251
Dimension I:	サービス・ラーニングの原理と使命	251
Dimension II:	サービス・ラーニングへの教員の支援と関与	256
Dimension III:	サービス・ラーニングへの学生の支援と関与	259
Dimension IV:	コミュニティの参加と協力	262
Dimension V:	組織的支援	265
	まとめ	272
結章	結論と示唆	274
. 結論		274
1.	3大学は、どのような目標を達成するためにSLを導入し、持続的な発展を推進したか。	274
2.	学生や教員によるSLへの関わりと支援は、そのくらい広範囲か。	278
3.	SLの制度化の重要な要素の中で、何が制度化の最終的指標となるのだろうか。	282
(1)	リーダーシップ	282
(2)	組織体制	285
(3)	内部及び外部資金と資金調達	286
4.	SLの制度の進展を阻む要因は何か。	288
5.	これらの3事例が、SLの制度化について示唆するものは何か。	291
(1)	理論と実践への示唆	291
(2)	今後の研究課題	293
参考文献		295
英語文献		295
日本語文献		305
あとがき		307
資料	アンケート調査質問表	308

## 1. 本研究の目的

アメリカの高等教育における教育実践としてのサービス・ラーニング(以下、SL と略)は、1980 年代後半に注目を浴びるようになり、1990 年代には大発展を遂げ、教育改革に必要不可欠な影響力をもつものとして認められるようになった。大学は、社会的使命への新たな責務を表明する際に、その責務を果たす中心的な手段として SL を推奨した。

SL は、高等教育においてその存在は益々顕著になったが、大学により SL の取り入れ方が様々なのは、どのような理由からなのか、大学はどのようにその独自性と文化の中に SL を制度化したのか等に関しては、多くのことは分かっていない。

本研究は、アメリカの大学における先駆的なサービス・ラーニングの制度化過程の考察を通して、サービス・ラーニングがどのような目的で導入され、どのように大学のそしくに影響を及ぼし、どのような政策や仕組みが制度化レベルとかんれんするのかを探ることである。サービス・ラーニングが教育改革に十分に寄与すべきであれば、教育哲学、教育法、プログラムとしてのサービス・ラーニングの本質をまもるために、制度化過程にはなにかかんよするのかを明確に理解する必要がある。本論文はこのような課題を文献の検討や事例研究を通して、歴史的、実証的に考察を試みる。

本論文では、記述的枠組みとして SL の制度化に影響を及ぼす重要な組織要素に加えて、SL の役割にも着目する。それにより、SL が一枚岩の活動ではなく、むしろ様々な目的に役立ち、制度化に関連する多様な形態をとることを明らかにできるからである。

以上の作業を通して、第 1 に、大学は、どのような目標を達成するために SL を導入し、持続的な発展を推進したか、第 2 に、学生や教員による SL への関与と支援は、どのくらい広範囲か、第 3 に、SL の制度化の重要な要素の中で、何が制度化の最終的な指標となるのか、第 4 に、SL の制度化の進展を阻む要因は何か、第 5 に、これらの事例が、SL の制度化について示唆するものは何か、の解明を目指す。

## 2. 本研究の意義

SL は、コミュニティへのサービスの提供を通じて、コミュニティ・パートナーとの関係の発展を支援するだけでなく、学生のための学習中心の環境を創造し、内省的な考え方を通して前向きな人生目標に備えて学生を育成する教授法である。

しかし、SL を大学で実践することは、大学の組織に多大な影響を及ぼすことが分かった。

というのは、SLを持続し、制度化するためには、各大学は制度化をもたらすとされる組織要素への取り組みと大学の使命、文化、資源とを整合する必要があることが明らかとなったからである。従って、大学のリーダーたちは、SLを導入する段階から、制度化に影響を及ぼす組織要素に留意する必要がある。組織要素へのどのような取り組みが制度化を促進するのか、どのような政策や取り組みが制度化を阻むのかを特定できれば、大学のリーダーたちは、より積極的に組織変化を推進することが可能になる。そのためには、組織要素への取り組みと制度化レベルの関係について理解を深める研究が必要となる。そのような研究により、SLを推進するための大学独自の効果的な取り組み方の開発が可能になる。

### 3. 先行研究の検討

先行研究の目的は、大学における革新的な概念としてのSLの制度化に関する研究を検討することである。では、本研究が課題とする点について先行研究はどのように言及しているであろうか。

第1に、成功したSLプログラムの構成や制度化の成功要因に関する文献は多数ある。しかし、プログラムが成功要素を全て備えていても、長期間にわたるSLプログラムの維持が困難であることが指摘されている (Shulha and Piker, 1995)。

一方、SLの実施や評価への取り組みが組織要素と関連があることをホランドは示唆し、SLを制度化するためには、各大学は、SLを機関の使命と整合させる必要性を指摘した (Holland, 1997)。そして、SLにおける最も急を要する研究分野は「組織変化のプロセスと戦略」であることを示唆した (Holland, 2000, p. 59)。

第2に、SLの制度化に影響を及ぼし、相互に依存する共通の組織要素(大学の類型、導入の意図等に関わらず共通)が特定できるようになった(例えば、Bringle & Hatcher, 2000a; Furco, 2002; Holland, 2000)。そして、特定の構成要素の重要性やSLの制度化戦略は、大学の類型によりほぼ決まることも明らかになった (Bell e al., 2000 他)。そして、大学における制度化には、5年から7年間にわたる学内一致の取り組みが必要であることも判明した (Furco, 2002a)。

第3に、SLはそれ自体のために制度化されるのではなく、むしろ、大学の重要な目標を達成するための戦略として活用するとき、最も上手く持続することも明らかになった (Holland, 2000)。更に、SLは、どの大学の環境やニーズにも適応できる普遍的な取り組みであること、それゆえ、大学の多様な意図に対する幅広い適応性をSLに与え、SLが大学の目的に最善のやり方で役に立てることが明らかになった。

第4に、SLによる大学の組織への影響を測定する必要性に多くの研究者が注目するようになり、ホランド (Holland, 1997) はマトリックス、ゲルモンら (Gelmon et al., 2005) は自己評価ツールを開発した。ファーコ (Furco, 2002) は、SLの制度化に影響を及ぼす5つの局面及びその構成要素とSLの制度化レベルを測定する指標を開発した。

以上のように、SLは大学の中心的価値として評価されるようになったが、ホランドが指摘したSLが大学の独自性と文化の中に制度化されるプロセスや戦略に関する研究は多くない。もし、制度化を促進する戦略が明らかになれば、大学はコミュニティとより容易に関与できるかもしれない。そして、コミュニティとの密接な活動を通して、大学は全ての利害関係者に利益をもたらす共生関係を構築できるかもしれない。

本研究は、先駆的事例の取り組みの考察を通して、SLがどのような目的で導入され、大学の組織にどのような影響を及ぼし、どのような取り組みが制度化レベルと関係があるのかについて解明を試みる。

#### 4. 主たる方法

本研究の包括的な質問である「SLがどのように大学の組織に影響を及ぼし、どのような取り組みが制度化レベルと関連するのか」と5つの副次的研究質問に答えるための研究計画と研究方法について述べる。

まず、本研究では、調査対象の大学では、サービス・ラーニングが教育哲学、教育法、プログラムとして、ある水準で認められ、評価されているという仮説を立てた。研究の記述的枠組みとして、ファーコの「高等教育におけるSLの制度化のための自己評価ルーブリック」とファーコとホランドの「教育機関の意向を達成する際のSLの役割」を利用した。ルーブリックは、学内のSLの活動を促進する一連の構成要素を5つの局面に類別する。調査票 (PART A) では、各構成要素に関する自校の進展度を自己評価する形式となっている。一方の教育機関の主要な目標は6つに類別され、その目標達成のためのSLの役割が示されている。事例の取り組みはこれらの枠組に沿って記述した。ルーブリックは、調査時点での取り組みの評価を測定することが目的だが、本研究では、各大学でSLの調整部署が設立された時期までさかのぼり、その時点から2010年頃までの主要な政策文書や年次報告等を調査対象とし、SLの取り組みの長期的な考察を試みた。

本研究は研究目的がプロセスを説明し、複雑な背景を解明することが目的であるため、事例研究が効果的であると判断した。事例研究のために必要となる資料は、ファーコのル

ーブリックにおける各局面の構成要素に関して書かれ、話された証拠である。主な資料収集方法は、調査票 (PART A, PART B)、訪問・インタビュー及び関連文書进行分析する方法を組み合わせたものである。PART B は、副次的研究質問のうち問 1 から 4 に対する回答を引き出すため、筆者が考案したものである。研究対象には、SL 分野で先駆的な取り組みを行い、制度化を達成したと評価されたペンシルベニア大学 (ペン大)、ポートランド州立大学 (PSU)、カリフォルニア州立大学モントレイ校 (CSUMB) を選出した。

## 5. 本論文の構成

本論文は、全 5 章からなります。

序章では、サービス・ラーニングの研究の視座とアメリカにおける SL の現状、本研究の課題、研究計画と研究方法について述べる。

第 2 章では、SL の理論的背景、効果、導入と持続的発展から先行研究を行い、本研究の重要性を示す。

第 3 章では、3 大学における SL の取り組みを 5 局面の組織要素別に考察し、SL の役割や価値は大学ごとに異なることを明らかにする。

第 4 章では、5 局面の各構成要素に関する 3 大学の取り組みの類似点と相違点を比較し、SL を制度化する目的とその方法が多様であることを示す。

結章では、5 つの副次的質問への解答を通して、SL の導入の目的や大学の組織に及ぼす影響、SL への取り組み方と制度化レベルとの関係に関する結論を提示する。最後に、理論と実践への示唆を示し、今後の研究課題を提起する。

## 6. 本研究で明らかにしたこと

これまで明らかにしてきたことを振り返りながら、3 大学による SL の制度化への取り組みを確認し、併せて 5 つの問いに対する解答を示す。

SL の制度化の根拠となる構成要素 (活動・組織・要因) に関する 3 事例の取り組みを検証した結果、これらの構成要素の中で特に学長やプロボストらの執行部の支援、調整部署の設置、コアの教員グループの支援、そして財源が、SL の制度化を促進する要因であることを明らかにした。

一方、SL の制度化の構成要素に焦点を当てることにより、SL が大学の組織へ与える影響を検証することが出来た。3 大学の取り組みは、変化する組織の興味深い描写である。次に 5 つの問いに対する解答を示す。



第1の問いは、3大学は、どのような目標を達成するためにSLを導入し、持続的な発展を推進したかである。

ペン大は、理論と実践を教育と研究に融合させ、コミュニティの強みと活力の向上を目指す主要な都市型大学となることを使命とし、その方法のひとつとして西フィラデルフィア地区住民へのサービスを行うとした。そして、ペン大は地元コミュニティの再生を実現するための総合的戦略計画を構想し、優先目標の一つとしてコミュニティ・パートナーシップを計画に盛り込んだ。その目標達成のために「大学の教育と研究という基本的使命と一貫性を保ちつつ、経済的開発を促進し、西フィラデルフィア地区の生活の質の向上にコミュニティと共に取り組む」と明言した。取り組みの方策として、地元の小・中学校の改善、ペン大の教職員のボランティア活動への参加促進とSLプログラムの開発を奨励した。ペン大のコミュニティへの関わりが学内の状況を活性化し、学問領域準拠型コミュニティ・サービス(ABCS)科目があらゆる学問分野で開発された。従ってペン大のSLは、大学とコミュニティとの関係を改善し、西フィラデルフィア地区とのパートナーシップを強化するという大学の目標を達成する戦略として活用されている。

PSUはペン大と比べるとより健全な都市環境に位置しているが、有効性にかけるカリキュラムと厳しい予算緊縮の課題に直面していた。そうした課題に対するPSUの対応は、大学とコミュニティとの連携が中心的役割を担う包括的組織改革であった。まず、都市型大学としての新たな使命を確立し、その基本概念を実現するために一般教育カリキュラムの改訂に踏み切った。カリキュラムに位置づけられたコミュニティ基盤の学習(CBL)科目は、貢献する市民を育成する一方で、学問分野において学生を教育するものである。学生はコミュニティ活動に関わることにより、チームワーク、市民的責務、知的スキルのコミュニティ課題への応用等、学生のためになる一方で他人のためになることを学ぶ。学生はコミュニティ体験の振り返りを通して自分を教え、相互に教え合う積極的で主体的な学習者となることが期待される。PSUは、特に、コミュニティと大学間の相互関係を促進する「関わる大学」としてのアイデンティティに価値を置き、学生、教員、コミュニティ間の関わりは、グローバルに関連し、地域に焦点を合わせた学習や研究の基本理念となっている。

CSUMBは、労働者階級や低所得者層に奉仕する目的で設立され、学生は生産的な市民となるための批判的な思考と、多文化コミュニティの構築者になるための社会的責務とスキルの理解が期待されている。SLは、将来ビジョンの中で主要な教育的価値のひとつに位置づけられている。SLの特徴は、伝統的な学問分野の知識を獲得する単なる教授法ではなく、各自の学問分野の知識基盤の中で、同情・多様性・公正・社会的責務の課題を考察する一方で、実社会のコミュニティ・サービスを体験する点である。同情等のテーマは、SL科目と関連する学習成果に盛り込まれており、批判的な振り返りを通して学生は不公正の

システムが自分自身やコミュニティ・メンバーの生活に及ぼす影響を考察する。従って、CSUMBのSLプログラムは、社会変革の促進及びより公正な社会の創造に向けた内容、実践、教授法が採用されている。

以上の考察から、各大学はそれぞれの目標を達成するためにSLを活用し、サービス・ラーニングは各大学の目的に最善のやり方で役に立つことが検証できたといえる。

**第2の問いである、学生や教員によるSLへの関わりと支援は、どのくらい広範囲か、**に関する解答は以下のとおりである。

まず、学生によるSLへの関わりと支援に関しては、3大学とも学生が参加できる広範囲な機会を設けている。SL科目、コミュニティ・エンゲージメント研究(CER)、ボランティア、インターンシップ等がある。ペン大とPSUは学生の研究プロジェクトに資金を提供している。内部資金の提供は、学生のコミュニティへの関与に大学が一層力を入れていることを証明している。

教員にはSL科目の担当、CER、SLカリキュラムの開発等の機会が設けられている。ペン大とPSUは、SL科目開発給付金を支給している。PSUでは、多様な形と金額のCER奨励金が用意され、学際的な教員グループを組織した研究が推進されている。教員のエンゲージメント活動や研究に関する内部資金は、大学のエンゲージメントへのコミットメントを明確に示している。又、正式な内部資金源のある大学の方が、コミュニティ・エンゲージメント研究や活動面での制度化が進んでいるといえる。3大学とも教員間の情報交換、科目開発への支援、研修会、大会への参加等の機会を設けている。3大学の関係者は、SLに関するFDが、制度化にとって重要であると認めている。3大学の中ではPSUが学際的な研究や出版を活性化する支援を積極的に行っている。更に、昇進及びテニユアに関するエンゲージメント学識の文書化に関する教員への支援にいち早く取り組んだのもPSUである。

**第3の問いである、SLの制度化の重要な要素の中で、何が制度化の最終的指標となるのか、**に対しては、リーダーの交代あるいは財政支援の変化をSLがどの程度切り抜けることができるかが根本的な指標となることを指摘した。

3大学の取り組み組を検討した結果、3大学は主に、インフラ、カリキュラム改革、資金、リーダーシップ、政策に焦点を当ててSLを制度化しようと試みたことが明らかになった。中でも学長のリーダーシップが重要である。そこで、学長のリーダーシップが影響を及ぼす組織体制や資金的支援に焦点を当て、SLが大学の組織にどのような影響を及ぼし、

どのような取り組みが制度化レベルと関連しているのかを考察した。その結果、次のようなことが明らかになった。

学長は、エンゲージメントの重要性を伝達する主要なリーダーとして、大学の使命を解釈し、その使命を実施するための目的を明示することにより、リーダーシップを発揮する。SL は、リーダーの総合的な支持と取り組みに左右される。SL の価値を実証するリーダーが存在する（存在した）ペン大や PSU の方が、教員の取り込みや学生の積極的な参加を促進する状況を創出しやすい。

3大学の学長は、公的なメッセージ、戦略計画、コミュニティ・エンゲージメントを支援・推進・実践するための仕組みを通して任務を遂行した。学長は聴衆に関係なく、大学の成果、大学とコミュニティや州との関係、高等教育の文脈における大学の課題、大学の経済的発展等に言及する。リーダーは、又 SL の制度化を推進するために戦略計画を利用する。例えば、ペン大と CSUMB の学長は、SL プログラムの開発（ペン大, 1997）や SL 専攻や学生リーダーシップ・プログラムの制度化（CSUMB, 2001）を戦略計画に明記した。

制度化に関する難題のひとつは、重要なリーダーの辞職に際し、継続性を確保することである。離職の頻度は、平均5年から7年なので、理事や関係者は、エンゲージメントを大学の機能としての確に表現し、個人的コミットメントを共有するリーダーを任命し、持続可能性を確実にしなければならない。その際、コミュニティ・エンゲージメントを支援し推進する調整部署の責任者が、持続可能性の確保にとって最も重要な存在といえる。

リーダーは、メッセージや戦略計画に加えて、組織体制と資源の配分等のインフラ整備にも重要な役割を果たしている。3大学に設置された一極集中型の部署（センター）は、それぞれ教学担当部署の傘下にあり、教員がディレクターに任命され、コミュニティ・サービスに責任をもつスタッフと場所が配置されている。これは、学生が大学の正規の活動としてコミュニティ・サービスに関与する重要性を表しています。又 SL やコミュニティ・サービスへの学内の予算配分は、リーダーの支援とコミットメントを示している。3大学のコミュニティ・サービスへの財源は、内部資金、外部交付金、助成金、基金などで、各大学は SL センターの運営費の約3分の1程度しか支援していない。このような内部資金と外部資金の混合した資金調達、制度化に関して最善の成果を生み出しているといえる。

第4の問いである、SL の進展を阻む要因は何か、に対する解答は、昇進及びテニユアに関する規程が整備されていないことである。これらに関する規程にエンゲージメントの学識の価値が含まれていなければ、制度化されているとはいえない。教育と研究の両方におけるエンゲージメントの役割の評価は、教育の業績や専門的分野の評価だけでなく、制度

化の推進のためにも重要である。PSU と CSUMB はエンゲージメントへ適応するための特定の規程の整備や改定を行ない、コミュニティと関与する学識に対して報酬を与える組織文化へ変化した。こうした組織変化は、新知識の創造だけでなく、より効果的に教育的・市民的使命を達成するためにコミュニティと連携する教員活動を可能にした。ペン大は他の殆どの研究型大学と同様に、エンゲージメントに関する学識を昇進及びテニュア規定に盛り込んでいない。

最後の質問である、これらの3事例が、SLの制度化について示唆するものは何か、については、次の4点を指摘したい。

第1に、SLの制度化を成功させるためには、教育機関の使命と目標の範囲内で、研究・教育・サービスを意図的に統合する必要があるということである。

第2に、組織要素の分析は個々の大学のSLへの関与レベルの測定やSLに関する計画と目標達成の方向性を示している。大学の包括的な目標とSLの役割の分析から、大学の目標がSLの役割や定義、教員や大学の支援、学生の関与と支援、形成するコミュニティ・パートナーシップの種類を決定することである。

第3に、組織要素への取り組み方は、各大学におけるSLの制度化への有効な戦略であることを示すが、組織要素に注意を払わない場合は、SLの持続可能性へのリスクが生じることである。

第4に、コミュニティ・パートナーシップの可能性は、多種多様であるということである。成功の秘訣は、①相互に利益をもたらす関係であること、②大学がパートナーシップの目標と期待に継続してコミットすること、③相互理解と尊敬に基づいた関係を構築することである。

第5に、本研究は、SLを高等教育の使命である教育・研究・サービスの3要素を結びつける重要な価値のある教授法として正当化する根拠の一助となりうることである。更に、大学の使命や目標とSLの役割との関係を強調して取組を推進することにより、教育・研究・サービスのすべてにもたらす波及効果を利用することが可能になるということである。

第6に、日本の大学の地域貢献を理解する際の示唆となる点である。持続的、かつ良質な形で地域貢献を実践し続けるためには、大学はエビデンスに基づく現状認識を基盤に、単に地域貢献の拡大だけを目指すのではなく、大学独自の文脈に応じた研究、教育、そこから派生する地域貢献のあり方を、これらの分野の関係に注目しつつ、長期的な観点から

問い直す必要があるという点である。

## 7. 本研究のオリジナリティはどこにあるか

まず、日本国内の先行研究との比較における本研究のオリジナリティについて述べる。

日本国内における SL 研究が本格的に始まったのは、2000 年（平成 12 年）前後である。この 10 年ほどの SL 研究を概観すると、当初はアメリカの SL の紹介を主とした理論研究が中心であったが、近年は大学教育を中心とした実践研究へと重点が移動している。しかし、これらの研究は、SL の成立・理論・成果など、SL の特徴を概略的に紹介するに留まるものや、個別の大学の実践を報告した論文がほとんどである。高等教育における SL の制度化の理論とその方法を説明しようとする本研究とは、論点が大きく異なる。現時点で、SL の制度化に関する総合的な研究は見当たらない。

次に、アメリカにおける SL 研究との対比における本研究のオリジナリティは、次の 2 点である。

**第 1 点は**、3 大学における SL の制度化に向けた取り組みを多数の相互に依存する組織要素ごとに考察し、過去 20 年間のプロセスを検証したことである。これにより、大学がどのような理由で SL を導入し、どのような組織変化を経て制度化に至ったかを体系的・実証的に明らかにした。

従来の SL の制度化に関する先行研究には、制度化の成功要因に関する文献は多数ある。しかし、SL の持続的発展と制度化にとって重要で緊急性を要するとホランドが指摘した組織要素と制度化レベルに関する研究は、極めて少ないのが現状である。本研究はこの不十分さを補った点にオリジナリティがあると考ええる。

**第 2 点は**、SL の制度化における組織要素に対する大学の取り組みを分析対象とするだけでなく、大学の組織目標と SL の役割との関連も考察の対象とし、総合的に分析したことである。

ファーコの研究は、制度化における独自性を示唆しているが、異なる形態の SL を考察の対象としておらず、従って SL が大学ごとに極めて異なるという点を考慮に入れていない。本研究は、SL が一枚岩ではなく、むしろ様々な大学の目的に役立ち、制度化に関連する多様な形態をとることを明らかにした。

## 8. 今後の研究課題

今後の課題について3点指摘したい。

**第1に**、SLの評価と監視（モニターリング）に関する研究がエビデンスの基盤を発展させるために重要であるという点である。データは、SLの正当性を立証する上で不可欠である。教育的・学術的な面だけでなく、投資に関する利益、学生への影響、大学及びコミュニティの利益と成果に関するエビデンスは、制度化を推進するためには必須であると考えられる。

**次に**、パートナーシップの「量」に加えて、「質」に関する理解を深めるためには、更に研究が必要となる。例えば、どのパートナーシップが最も成功しているか、パートナーシップが上手くいっているか否かを説明する要因は何か、パートナーシップをどのように評価するのか、パートナーシップからどのような教訓を学んだか、どのようなパートナーシップの質に関する議論や知識は、学内レベルに終始しているのが現状である。

**最後に**、本研究は研究型の私立大学、総合型の公立大学、地方型の新設公立大学を事例として選んだが、更に、リベラル・アーツ大学や短期大学等における事例研究が求められる。

本研究を出発点として、これらの点について研究を進めていきたい。

以上

## 参 考 文 献

### 英語文献

- American Association of State Colleges and Universities. (1986). *To secure the blessings of the liberty. Report of the National Commission on the Role and Future of State Colleges and Universities*. Washington, DC, Author.
- Astin, A.W. (1995, October 6). What higher education can do in the cause of citizenship? *Chronicle of Higher Education*.
- Astin, A.W. (2000). Conceptualizing service-learning research using Ken Wilbur's integral framework. *Michigan Journal of Community Service Learning, Strategic Directions of Service Learning Research*, Special issue, 98-104.
- Astin, A.W., Parrott, S.A., Korn, W.S., & Sax, L.J. (1987). *The American freshman: Twenty year trends, 1966-1985. Cooperative Institutional Research Program*. Los Angeles, CA: Higher Education Research Institute.
- Astin, A.W., & Sax, L.J. (1998, May-June). How undergraduates are affected by service. *Journal of College Student Development*, 39 (3), 251-263.
- Bastedo, M.N. (2007). Bringing the State Back in: Promoting and sustaining innovation in public higher education. *Higher Education Quarterly*, Vol. 61, no.2, 155-170.
- Battistoni, R.M. (2002). *Civic engagement across the curriculum: A resource book for service-learning faculty in all disciplines*. Providence, RI: Campus Compact.
- Bell, R., Furco, A., Ammon, M.S., Muller, P., & Sorgen, V. (2000). *Institutionalizing service-learning in higher education: Findings from a study of the Western Region Campus Compact Consortium*. Western Region Campus Compact Consortium. Bellingham, WA: Western Washington University.
- Bennett, W. (1984). *To reclaim a legacy: A report on the humanities in higher education*. Washington, DC: National Endowment for the Humanities.
- Billig, S.H. (2003). Studying service-learning: Challenges and solutions. In S.H. Billig & A. S. Waterman (Eds.), *Studying service-learning: Innovations in education research methodology*, vii-xiv. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Blanton, J. (2007). Engagement as a brand position in the higher education marketplace. *International Journal of Educational Advancement*, 7, 143-154.
- Boyer, E.L. (1987). *Colleges: The undergraduate experience in America*. Princeton, NJ: Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.
- Boyer, E.L. (1990). *Scholarship reconsidered: Priorities of the professoriate*. Princeton, NJ: The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.

- Boyer, E.L. (1994). Creating the new American college. *The Chronicle of Higher Education*, 40, p.48.
- Boyer, E.L. (1996). The scholarship of engagement. *Journal of Public Service and Outreach*, 1(1), 11-20.
- Bringle, R.G., Games, R., & Malloy, E.A. (1999). Colleges and universities as citizens: Issues and perspectives. In R.G. Bringle, R. Games, & E.A. Malloy (Eds.), *Colleges and Universities as Citizens*. Needham Heights, Mass.: Allyn & Bacon.
- Bringle, R.G., & Hatcher, J.A. (1995). A service-learning curriculum for faculty. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 2, 112-122.
- Bringle, R.G., & Hatcher, J.A. (1996). Implementing service learning in higher education. *Journal of Higher Education*, 67(2), 221-239.
- Bringle, R.G. & Hatcher, J.A. (2000a). Institutionalization of service learning in higher education. *Journal of Higher Education*, 71(3), 273-290.
- Bringle, R.G. & Hatcher, J.A. (2000b). Meaningful measurement of theory-based service learning outcomes: Making the case with quantitative research. *Michigan Journal of Community Service Learning, Special Issue, Fall*, 68-75.
- Bringle, R.G. & Hatcher, J.A., Hamilton, S., & Young, P. (2001). Planning and assessing campus/community engagement. *Metropolitan Universities: An International Forum*, 12(3), 89-99.
- Bringle, R.G., & Kremer, J.F. (1993). An evaluation of an intergenerational service-learning project for undergraduates. *Educational Gerontologist*, 19, 407-416.
- Bucco, D. (1995). *Building sustainable programs: A guide to developing and maintaining service learning at community colleges*. Mesa, AZ: Campus Compact National Center for Community Colleges.
- Calleson, D.C., Serow, R.C. & Parker, L.G. (1998). Institutional perspectives on integrating service and learning. *Journal of Research and Development in Education*, 31(3), 147-154.
- Campus Compact (1996). *Creating a climate for change: Lessons learned from the 1991-1996 Institutes on integrating service with academic study*. A Report of the Project on Integrating Service with Academic Study. Providence: Campus Compact.
- Campus Compact (n.d.). *About Campus Compact*. Retrieved October 12, 2007 from <http://www.compact.org/aboutcc/>
- Campus Compact (2009). *Annual membership survey results: Executive summary*.
- Carnegie Corporation of New York. (2004). *The Civic Mission of Schools*.



- Carver, R.L. (1997). Theoretical underpinnings of service learning. *Theory into Practice*, 36(3), 143-49.
- Chance, W. A vision in progress: *The decision to establish a public university at Monterey Bay*. An occasional paper. San Jose, CA: California Higher Education Policy Center.
- Clinton, W.J. (1994, September 8). Washington, DC: The White House. Available from the National Service-Learning Clearinghouse.
- Cohen, A.M. (1998). *The shaping of American higher education: Emergence and growth of the contemporary system*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Colby, A., Ehrlich, T., Beaumont, E., & Stephens, J. (2003). *Educating citizens: Preparing America's undergraduates for lives of moral and civic responsibility*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Community Outreach Partnership Centers. *The Power of partnerships: Celebrating 10 years*. US Department of Housing and Urban Development.
- Cone, D., & Harris, S. (1996). Service-learning practice: Developing a theoretical framework. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 3, 31-34.
- Corporation for National and Community Service. (n.d.). *About us: Legislative history*. Retrieved June 20, 2008 from [http://www.nationalservice.org/about/leg\\_history/html](http://www.nationalservice.org/about/leg_history/html)
- Crosson, P.H. (1985). *Public service in higher education: Practices and priorities*. Washington, DC: Association for the Study of Higher Education.
- Dewey, J. (1938). *Experience and education*. New York: Collier Books.
- Dewey, J. (1966). *Democracy and education: An introduction to the philosophy of education*. New York: The Free Press. (Original work published 1944).
- Dewey, J. (1998). *Experience and education*. West Lafayette, IN: Kappa Delta Pi. (Original work published 1938).
- Driscoll, A. (1998). Comprehensive design of community service: New undertakings, options, and vitality in student learning at Portland State University. In E. Zlotkowski, (Ed.), *Successful service-learning programs: New methods of excellence in higher education*. Bolton, MA: Anker Publishing.
- Driscoll, A., Holland, B., Gelmon, S., & Kerrigan, S.(1996). An assessment model of service learning: Comprehensive case studies of impact on faculty, students, community and institution. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 3, 66-71.
- Ehrlich, T., Hollander, E., et al.(1999). *Presidents' Fourth of July declaration on the civic responsibility of higher education*. Providence, RI: Campus Compact. Retrieved August 1, 2008 from <http://www.compact.org/presidential/declaration.html>

- Eyler, J.S. (2000). What do we most need to know about the impact of service-learning on student learning? *Michigan Journal of Community Service Learning, Strategic Directions for Service Learning Research*, Special Issue, 11-17.
- Eyler, J.S., & Giles, D.E., Jr. (1999). *Where's the learning in service-learning?* San Francisco: Jossey-Bass.
- Eyler, J.S., Giles, D.E., Jr., & Braxton, J. (1997). The impact of service-learning on college students. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 4, 5-15.
- Eyler, J.S., Giles, D.E., Jr., Stenson, C.M., & Gray, C.J. (2001). *At a glance: What we know about the effects of service-learning on college students, faculty, institutions and communities, 1993-2000* (3<sup>rd</sup> ed). Retrieved May 19, 2008 from <http://www.compact.org/resource/aag.pdf>
- Fredericksen, P.J. (2000). Does service learning make a difference in student performance? *Journal of Experiential Education*, 23(2), 64-74.
- Freire, P. (1970). *Pedagogy of the oppressed*. New York: Continuum.
- Furco, A. (1996). Service-learning: A balanced approach to experiential education. In B. Taylor (Ed.), *Expanding boundaries: Service and learning*, 2-6. Washington, DC: Corporation for National Service.
- Furco, A. (2000). *Self-assessment rubric for the institutionalization of service-learning in higher education*. Berkeley: Service-Learning Research and Development Center, University of California, Berkeley. Revised 2002.
- Furco, A. (2001). Advancing service-learning at research universities. In M. Canada and B.W. Speck (Eds.), *Developing and Implementing Service-Learning Programs. New Directions for Higher Education*, no.114, summer 2001, 67-78. Jossey-Bass.
- Furco, A.(2002a). Institutionalizing service-learning in higher education. *Journal of Public Affairs*, 8, 32-47.
- Furco, A.(2002b). Is service-learning really better than community service. In Furco, A. and Billig, S.H. *Service-Learning: The essence of the pedagogy*. Greenwich, CT: Information Age, Inc.
- Furco, A., & Holland, B.(2004). Institutionalizing service-learning in higher education.: Issues and strategies for chief academic officers. In M. Langseth, & W. Plater, (Eds.), *Public work and the academy: An academic administrator's guide to civic engagement and service-learning*. Bolton, MA: Anker Publishing.
- Gamson, Z.F., & Associates. (1984). *Liberating education*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Gamson, Z.F., Hollander, E., & Kiang, P.N. (1998). The university in engagement with society. *Liberal Education*, 84 (2), 20-25.

- Gelmon, S., Holland, B. A., & Shinnamon, A.F. (1998). *Health professions schools in service to the nation*. Portland, OR: Portland State University.
- Gelmon, S., Seifer, S.D., Kauper-Brown, J., & Mikkelsen, M. (2005). *Community-engaged scholarship for health collaborative: institutional self-assessment*. Seattle: Community-Campus Partnerships for Health.
- Giles, D.F., Jr., & Eyler, J. (1994). The theoretical roots of service-learning in John Dewey: Toward a theory of service-learning. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 1-77-85.
- Glassick, C.E., Huber, M.T., & Maeroff, G.I. (1997). *Scholarship assessed: Evaluation of the professoriate*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Goodman, P.S., Bazerman, M., & Conlon, E. Institutionalization of planned organizational change. (1980). *Tepper School of Business*. Paper 895. Retrieved May 19, 2011, from <http://repository.cmu.edu/tepper/895>.
- Gray, M.J., Ondaatje, E.H., & Zakaras, L. (1999). *Combining service and learning in higher education: Summary report*. Santa Monica, CA: RAND.
- Greiner, W.R. (1994, Fall-Winter). In the total of all these acts: How can American universities address the urban agenda? *Universities and Community Schools*.
- Harkavy, I. (1996). Back to the future: From service-learning to strategic academically based community service as an approach for advancing knowledge and solving the problem of the American city. *Metropolitan Universities*, 7, 157-170.
- Harkavy, I. & Wiewel, W. (1995). University-community partnership: Current state and future issues. *Metropolitan Universities: An International Forum*, 6(3), 7-14.
- Heffernan, K. (2001). *Fundamentals of service-learning course construction*. Providence, RI: Campus Compact.
- Hesser, G. (1995). Faculty assessment of student learning: Outcomes attributed to service learning and evidence of changes in faculty attitudes about experiential education. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 2, 33-42.
- Hesser, G. (1998). On the shoulders of giants: Building on a tradition of experiential education in Augsburg College. In E. Zlotkowski (Ed.). *Successful service-learning programs: New models of excellence in higher education*, 15-39.
- Hirsch, D., & Lynton, E. (1995, Summer). Bridging two worlds. *NSEE Quarterly*, 10-28.
- Holland, B.A. (1994). *Students serving the city*. Proposal submitted to the Corporation for National Service.
- Holland, B.A. (1997). Analyzing institutional commitment to service: A model of key organizational factors. *Michigan journal of Community Service-Learning*, 4, 30-41.

- Holland, B.A. (2000). Institutional impacts and organizational issues related to service-learning. *Michigan Journal of Community Service Learning*, Special Issue, Fall, 52-60.
- Honnett, E.P., & Poulsen, S.J. (1989). *Principles of good practice for combining service and learning: A Wingspread special report*. Racine, WI: The Johnson Foundation.
- Howard, J.P., Gelmon, S.B., & Giles, D.E. (2000). From yesterday to tomorrow: Strategic directions for service-learning research. *Michigan Journal of Community Service Learning*, Special Issue, 5-10.
- Jacoby, B., & Associates (1996). *Service-learning in higher education: Concepts and practices*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Johnson, A.M., & Notah, F.J. (1999). Service learning: History, literature review, and a pilot study of eighth graders. *Elementary School Journal*, 99(5), 453-67.
- Johnson, R., & Driscoll, A. (1996). *Supporting faculty community service through revision of promotion and tenure guidelines*. Paper presented at the conference of American Association of Higher Education, Atlanta, GA.
- Kecskes, K. (2006). *Engaging departments: Moving faculty culture from private to public, individual to collective focus for the common good*. Bolton, MA: Anker.
- Kecskes, K., and Muyliaert, J. (1997). *Continuums of Service Benchmark Worksheet*. Western Region Campus Compact Consortium Request for proposals.
- Kellogg Commission on the Future of State Land-Grant Universities. (1999). *Returning to our roots: The engaged institution*. Washington, DC: National Association of State Universities and Land-Grant Colleges. Retrieved June 20, 2008, from <http://www.wkkf.org/Pubs/Tools/Evaluation/Pub3669.pdf>
- Kendall, J.C. (Ed.). (1990). *Combining service and learning: A resource book for community and public service*. Raleigh, NC: National Society for Internships and Experiential Education.
- Kezar, A., & Rhoads, R.A. (2001). The dynamic tensions of service learning in higher education. *The Journal of Higher Education*, 72(2), 148-171.
- Kolb, D.A. (1984). *Experiential learning: Experiences as the source for learning and development*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- Kramer, M. (2000). *Make it last forever: The institutionalization of service-learning in America*. Washington, DC: Corporation for National Service.
- Lawson, H.A. (2002). Beyond community involvement and service-learning to engaged universities. *Universities and Community Schools*, 7 (1-2): 79-94.
- LeGates, Richard T. & Robinson, G.(1998). Institutionalizing University-Community Partnerships. *Journal of Planning Education and Research*, 17, 312-322.

- Levine, A. (1980). *Why innovation falls*. Albany, NY: State University of New York Press.
- Lucas, C.J. (1994). *American higher education: A history*. New York: St. Martin's Griffin.
- Lynton, E.A., & Elman, S.E. (1987). *New priorities for the university*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Mabry, J. (1998). Pedagogical variations in service learning and student outcomes: How time, contact and reflection matter. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 5, 32-47.
- Maurrasse, D.J. beyond the campus: How colleges and universities form partnerships with their communities. New York: Routledge, 2001.
- McEwen, M.K. (1996). Enhancing student learning and development through service-learning. In B. Jacoby & Associates (Eds.), *Service-learning in higher education: Concepts and practices* (pp.53-91). San Francisco: Jossey-Bass.
- Mckenna, M.J., & Ward, K. (1996). Service-learning: A culturally relevant pedagogy. *Thresholds in Education*, 22(2), 18-21.
- Merriam, S.B. (1998). *Case study research in education*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Miller, J.D. (1998). *A centennial history of the Southern Association of Colleges and Schools, 1985-1995*. Decatur, GA: Southern Association of Colleges and Schools.
- Mintz, S.D., & Hesser, G.W. (1996). Principles of good practice in service-learning. In B. Jacoby & Associates (Eds). *Service-learning in higher education: Concepts and practices* (pp.26-52). San Francisco: Jossey-Bass.
- Moffet, C.A. (2000). Sustaining change: The answers are blowing in the wind. *Educational leadership*, 57(7), 35-38.
- Morton, K., & Saltmarsh, J. (1997). Addams, Day, and Dewey: The emergence of community service in American culture. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 4, 137-149.
- Morton, K., & Troppe, M. (1996). From the margin to the mainstream: Campus Compact's project on integrating service with academic study. *Journal of Business Ethics*, 15, 21-32.
- National Commission on Excellence in Education. (1983). *A nation at risk*. Washington, DC: U.S. Department of Education.
- National Community and Service Act. (1990). Retrieved March 29, 2007 from [www.csc.ca.gov/aboutus/files/ncsa1990.pdf](http://www.csc.ca.gov/aboutus/files/ncsa1990.pdf)

- National Institute of Education. (1984, October). *Involvement in learning: Realizing the potential of American education. Report of the NIE Study Group on the Condition of Excellence in American Higher Education*. Washington, DC: Government Printing Office.
- National Service Learning Clearinghouse.(n.d.). *Service-learning is*. Retrieved August,26,2007,from[http://servicelearning.org/welcome\\_to\\_service-learning/service-learning\\_is/index.php?](http://servicelearning.org/welcome_to_service-learning/service-learning_is/index.php?)
- Newman, F. (1985). *Higher education and the American resurgence. A Carnegie Foundation special report*. Princeton, NJ: Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.
- Office of Postsecondary Education. (n.d.). *FIPSE operating principles*. Retrieved September 7, 2008 from <http://www.ed.gov/about/offices/list/ope/fipse/princp.html>.
- O'Meara, K.A, and Rice, R.E. (2005). *Faculty priorities reconsidered: Rewarding multiple forms of scholarship*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Parker-Gwin, R. & Mabry, J. (1998). Service learning as pedagogy and civic education: Comparing outcomes for three models. *Teaching Sociology*, 26(4), 276-91.
- Putnam, R.D. (1995). Bowling alone. *Journal of Democracy*, 6(1), 65-78.
- Puzon, B. (1994). Integrity in the college curriculum. *Liberal Education*, 80(3), 14-22.
- Ramaley, J.A. (1995). *Implementing the strategic plan: A progress report*. Portland, OR: Portland State University.
- Reardon, M., & Lohr, J. (1997). The urban research university in American higher education: Portland State University as a model. *Journal of Higher Education (Hokkaido University)*.
- Robinson, G. (2000). Stepping into our destiny: Service learning in community colleges. *Community College Journal*, 70(3), 8-12.
- Robinson, G. & Barnett, L. (1998). *Best practices in service learning: Building a national community college network, 1994-1997*. Washington, DC: American Association of Community Colleges.
- Rockquemore, K.A., & Schaeffer, R.H. (2000). Toward a theory of engagement: A cognitive mapping of service-learning experiences. *Michigan Journal of Community Service learning*, 7, 14-25.
- Rogers, E.M. (2003). *Diffusion of innovations*. New York, NY: Simon & Schuster.
- Rubin, S. (1997). Institutionalizing service-learning. In Jacoby & Associates(Eds). *Service learning in higher education: Concepts and practices*, 310-317.
- Rudolph, F. (1962). *The American colleges and university: A history* (3<sup>rd</sup> ed.). New York: Knopf.

- Rudolph, F. (1977). *Curriculum: A history of the American undergraduate course of study since 1636*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Rue, P. (1997). Administering successful service-learning programs. In B. Jacoby & Associates(Eds.). *Service learning in higher education: Concepts and practices*. 246-275.
- Saltmarsh, J. (1996). Education for critical citizenship: John Dewey's contribution to the pedagogy of community service learning. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 3, 13-21.
- Sax, L.J.& Aston, A.W. (1997). The benefits of service: Evidence from undergraduates. *Educational Record*, 78(3-4), 25-32.
- Schneider, M.K. (1998, June). Models of good practice for service-learning programs. *AAHE Bulletin*. Retrieved from <http://www.aahe.org/service/bulletin%20article.htm>
- Serow, R.C. (1998). *Program evaluation handbook*. Needham Heights, MA: National Society for Experiential Education.
- Serow, R.C., Calleson, D.C., Parker, L.G., & Morgan, L.(1996). Service learning and the institutional mission of community colleges. *Community College Review*, 23(4), 3-13
- Sherman, D., & Williams, D. (2000, April). *When "reflection" isn't enough: Critical pedagogy and transformative service-learning*. Paper presented at Western Campus Compact Continuums of Service Conference, Seattle, Washington.
- Shulha, L.M., & Piker, J. (1995). *Can program evaluation rescue service learning? Experience and the Curriculum Report*. (ERIC Document Reproduction Service ED 398 032).
- Shulock, N.B. & Kecheson, K. A. (n.d.). *Assessing the Metropolitan University Mission*. Retrieved February 20, 2012 from <http://www.oirp.pdx.edu/metros.html>.
- Shumer, R. (1993). *Service learning: A study of exemplary practice*. St Paul, MN: University of Minnesota College of Education, Department of Vocational and Technical Education.
- Shumer, R. (2000). Science or storytelling: How should we conduct and report service-learning research? *Michigan Journal of Community Service Learning, Strategic Directions for Service Learning Research*, Special issue, 76-83.
- Southern Regional Educational Board. (1970). *Student manpower. Report of the Atlanta Student Manpower Project for the U.S. Department of Labor*. Atlanta, GA: Author.
- Southern Regional Education Board. (1973). *Service-learning in the South: Higher education and public service 1967-1972*. Atlanta, GA: Author.
- Speck, B.W. (2001). Why service-learning? *New Directions for Higher Education*, 114, 3-13.

- Stanton, T.K., Giles, D.E., & Cruz, N. (Eds.). (1999). *Service-learning: A movement's pioneers reflect on its origins, practice, and future*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Stark, J.S., & Lattuca, L.R. (1996). *Shaping the college curriculum: Academic plans in action*. Boston: Allyn & Bacon.
- Stern, R. (n.d.). *Campus outreach opportunity league*. Retrieved June 21, 2007 from <http://www.learningtogive.org/papers/index.asp>
- Study Group on the Condition of Excellence in American Higher Education. (1984). *Contexts for learning: The major sectors of American higher education*. Washington, DC: U.S. Government Printing Office.
- Toombs, W., & Tierney, W.G. (1991). *Meeting the mandate: Renewing the college and departmental curriculum*. (ASHE-ERIC Higher Education Report No. 6). Washington, D.C: Office of Educational Research and Improvement.
- Vernon, A., & Ward, K. (1999). Campus and community partnerships: An assessing impacts and strengthening connections. *Michigan Journal of Community Service Learning*, 6, 30-37.
- Veysey, L.R. (1965). *The emergence of the American university*. Chicago: University of Chicago Press.
- Ward, K.(1998). Addressing academic culture: Service learning, organizations, and faculty work. *New Directions for Teaching and Learning*, 73, 73-80.
- Waterman, A.S. (Ed.). (1997). *Service-learning: Applications from the research*. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Weerts, D.J. & Ronca, J.M. (2006). Examining differences in state support for higher education: A comparative study of state appropriations for research universities. *Journal of Higher Education*, 7, 79-103.
- Western Region Campus Compact. (2009). *Faculty engagement in service-learning and community-based research*.
- Westmeyer, P. (1997). *An analytical history of American higher education* (2<sup>nd</sup> ed.). Springfield, IL: Thomas.
- Williams, D., & Driscoll, A. (1996). Connecting curriculum with community service: Guidelines for facilitating student reflection. *Journal of Public Outreach*, 2(1), 33-42.
- Winiarczyk, E.J., & Long, T. (1996). Navigating through community service learning approaches. *Thresholds in Education*, 22(2), 2-6.
- Zlotowski, E. (1996). A new voice at the table? Linking service-learning and the academy. *Change*, 28 (1), 20-27.



Zlotowski, E. (Ed.). (1998). *Successful service learning programs: New models of excellence in higher education*. Boston, MA: Anker Publishing.

## 日本語文献

有本章編 (2003) 『大学のカリキュラム改革』 玉川大学出版部.

イエーガー、R.L. (2005) 「社会奉仕」 『米国の大学教育：社会と価値観』 米国国務省国際情報プログラム局、11月号、pp.32-34.

エリオット、P.G.(1999) 『都市型大学』 (岩田弘三訳) 玉川大学出版部 = Elliott, Peggy Gordon (1994) *The Urban Campus*. New York: Oryx Press.

エントウイッスル、N.(2010) 『学生の理解を重視する大学授業』 (山口栄一訳) 玉川大学出版部 = Entwistle, Noel. (2009) *Teaching for Understanding at University: Deep Approaches and Distinctive Ways of Thinking*. Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan.

犬塚典子 (2006) 『アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策』 東信堂.

カー、C. (1996) 『アメリカ高等教育の大変貌：1960-1980年』 (小原芳明他訳) 玉川大学出版部 = Kerr, Clark (1991) *The Great Transformation in Higher Education, 1960-1990*. New York: State University of New York.

喜多村和之 (1994) 『現代アメリカ高等教育論—1960年代から1990年代へ—』 東信堂.

館 昭 (2006) 「パブリック・サービスと社会貢献」 『原点に立ち返っての大学改革』 東信堂、pp.47-57.

中島智子 (2007) 「地域で学ぶ国際文化 プール学院大学のサービス・ラーニング」 『教育学術新聞』 2270-2272.

西尾隆 (2005) 「コミュニティ・サービス・ラーニング—教育・大学の知・社会の変革—」 『サービス・ラーニング入門』 国際基督教大学サービス・ラーニング・センター サービス・ラーニング研究シリーズ1、pp.39-52.

ボイヤー、E.L. (1996) 『大学教授職の使命：スカラシップ再考』 (有本章訳) 玉川大出版部 = Boyer, Ernest L. (1990) *Scholarship Reconsidered: Priorities of the Professoriate*. San Francisco: Jossey-Bass.

嶺井明子編著 (2007) 『世界のシティズンシップ教育：グローバル時代の国民/市民形成』 東信堂.

村上むつ子 (2007) 「地域貢献活動を学習に “サービス・ラーニング” の試み 国際基督教大学」 『教育学術新聞』 2258-2259, 2261.

- 山田礼子 (2007) 「コミュニティ問題を改善しながら理論を学ぶ」『カレッジマネジメント』  
147/Nov./Dec.: 70-73.
- 山本悦子 (2007) 「恵泉女学園大学のコミュニティ・サービス・ラーニング」『教育学術新聞』  
2285-2287.
- 山本和 (2005) 「『サービス・ラーニング』とは何か」『サービス・ラーニング入門』国際基督教大学サービス・ラーニング・センター、サービス・ラーニング研究シリーズ  
1: 5-11.